

練習開始

彩の国プラチナ混声合唱団 ゴールデンウェーブ in 横浜 目指し

彩の国プラチナ混声合唱団(以下プラチナ混声)が、1月31日スタートし、4月17～19日の第12回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」

への出演を目指しています。

プラチナ混声は埼玉県合唱連盟が主宰するシニア有志の合唱団です。



川雁詩/新実徳英曲)と「きみ歌えよ」(谷川俊太郎詩/信長貴富曲)を演奏します。今回は総勢120名の大きな合唱団になりました。指揮は埼玉県合唱連盟・小野瀬照夫理事長、ピアノは持田みどり理事です。

練習は全7回予定しており、中間の3月5日には全日本おかあさんコーラス埼玉県大会(和光市民文化センター)にゲスト出演も予定しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の「5類」への移行は5月8日なので、それまでは現在の全日本合唱連盟のガイドライン第3.1版(2022年1月24日更新)に基づくしかなく、マスク着用やオンステ人数制限などは厳しいままです。従って、おかあさんコーラス大会では全員が一度にオンステできず、二グループに分けて二度演奏することになりました。



ゴールデンウェーブ in 横浜

「ゴールデンウェーブ」は、2009年4月横浜開港150年記念事業の一環として始まりました。第12回大会は2020年4月に予定していましたが、コロナ禍に阻まれ同年6月に延期したものの結局中止となりました。その後、会場の横浜みなとみらいホールの耐震改修工事もあり、2019年以来4年振りの開催に漕ぎつきました。

ゴールデンウェーブの参加資格は平均年齢60歳以上(最低50歳)、15名以上の合唱団です。今回は国内外から89団体が参加し、熱演を繰り広げます。埼玉からはプラチナ混声の他に4団体がエントリーしています。『おんがく広場』編集委員5名は全員エントリーしています。また、主催者が公募したゴールデンウェーブ合唱団(女声)の演奏もあります。

講評者には指揮者・作曲家・声楽家・ピアニストなど著名な方々18名が名を連ね、各日6名が講評に当たります。司会はアナウンサーの朝岡聡さん。

？ マスク着用は解除されず ？

プラチナ混声は、混声四部合唱「火の山の子守歌」(谷

待たれる全日本合唱連盟 ガイドライン改定

米国では、2020年3月に発出されたコロナ非常事態宣言を5月11日に解除すると、1月30日発表されました。米国で感染者が確認されてから3年が経ち、マスク義務化などの規制が徐々に解除され、社会の正常化が進んでいると判断しての対応です。日本でも同じように緩和されつつありますが、実際に蓋を置けないと具体的な対応策も決められないと思います。

全日本合唱連盟ガイドラインは2020年6月策定以来、5度改訂されましたが、最新のものは既に1年以上経過しています。そこには「不織布マスク着用」「マスクを着用せずに歌唱する場合、人との間隔はできるだけ2m(最低1m)空ける」と書かれており、現実とは乖離が見られています。今は「5類」移行の直前で、中途半端な時期ですが、経過措置として暫定的な内容でも構わないので一歩進めてはどうでしょうか。

合唱も持続可能に SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsは、人類が地球で暮らし続けるために、2030年までに達成すべき「持続可能な開発目標」です。貧困、紛争、気候変動、感染症。人類は、かつてない課題に直面しています。これは合唱界においてもまさにそのまま当てはまります。

コロナ禍で合唱人口は減少の一途です。なんとか課題を整理し、解決方法を考えたいものです。持続可能とは、何かをし続けられる、ということです。幸いにも少しずつ明るい光も見え始めてきました。私たちは悲観することなく、前向きに「持続可能な合唱界を築くためには、何をしたらいいだろう?」、「自分は何ができるだろう?」と、みな考えて、行動したいものです。